

悠久の歴史を紡ぐ

# 古市場

## 若宮八幡神社とその周辺

ふるさと  
の 112  
誇り



ご神体



狛犬



調査の様子

普段は本殿深く安置される神社のご神体は、十一世紀の作とされ国の重要文化財に指定されている江原浅間神社のご神体にやや遅れる十二世紀頃(平安時代、今から八百年以上前)の作。また、同じく本殿に安置される木製の狛犬も、近年の調査(成城大学岩佐光晴教授による)によって、形や造られ方の特徴から、その製作が平安時代にさかのぼるものである可能性が指摘され、こちらも貴重な文化財といえることができる。



●若宮八幡神社

周辺には、古代のほ場整備の痕跡である一町(約一〇九m)四方の基盤の目状の土地区画(条里型の地割)が色濃く残り、神社の参道はその基軸線にもなっている。近年の発掘調査により、その起源は平安時代以前にさかのぼることが指摘されており、この面からも、周辺が古代から開発が進んだ文化の中心地であったことがわかる。



※今回紹介する土器や天目茶碗は、ふるさと文化伝承館(野牛島二七二)で展示され一般公開されています。しかし、神社のご神体及び狛犬は、調査のために特別に撮影されたもので、普段は信仰の対象として本殿に安置され一般に公開されているものではありません。

このような歴史深い神社がここに鎮座することは、とりもなおさず、神社周辺が古くから人の営みが認められる、悠久の歴史が紡がれてきた場所であったことを示しているのです。 写真・文 文化財課

古市場にある若宮八幡神社で毎年十月に奉納される神楽は、市指定の無形文化財に指定されています。はじめて奉納されてから百周年を迎えるそう、今年には氏子さんたちによって記念誌なども刊行されました。

しかし神社の歴史はさらに深く、神社に伝わる由緒(ゆいしよ)によれば、創建は古墳時代にさかのぼるといいますから、その歴史は千五百年以上ということになります。



また、発見された土器は、この当時、現在の静岡県や東海地方に住んだ人々が使った土器と良く似ていることから、若宮八幡神社を含む南アルプス市域南部が、富士川を介した文化の交流点であったことを教えてくれる(左は住吉遺跡から発見された東海地方の影響を色濃く示す土器)。

周辺の、山梨県に水稲耕作が伝播(でんぱ)した今から約二千年程前、御勅使川扇状地の伏流水に支えられて、県内で最も早く稲作が始まった地域のひとつとして知られている。そのため、周辺には弥生時代の遺跡が数多く分布している。



神社のすぐ南にあるアパートの建設に伴う発掘調査では、室町時代(今から約五百年前)の瀬戸美濃焼の天目(てんもく)茶碗が発見された。当時としては大変な高級品であることから、当時ここに、ある程度有力者が存在した可能性と、その権力を支えたこの地の生産力の高さを知ることができる。